

# 日本が消滅しないための戦略

## 無音の現代音楽

一九五〇年代から八〇年代にかけて世界で活躍したジョン・ケージというアメリカの現代音楽の作曲家が存在した。その革新さを象徴する一九五二年に作曲した「四分三三秒」という作品がある。東京の音楽ホールで演奏されたときに会場で鑑賞した経験があるが、壇上に登場してピアノの椅子に着席したままで微動もせず、四分三三秒が経過した段階で退場して終了であった。詐欺のような音楽であるが、当然、意味がある。

四分三三秒は秒数で二七三秒になるが、これは絶対零度の摂氏マイナス二七三度と同一の数字であり、物質内部の原子の振動が完全に停止す

る状態を意味する。それを象徴するように一切の音響が発生しない静止した音楽を作曲したのが「四分三三秒」である。この音楽が楽譜のままであれば奇妙な音楽で片付けられたが、会場で演奏されることにより偶然に発生する物音や話し声も音楽の一部となり、音楽の革命となった。

## 停止状態に進行する日本

飛躍するようであるが、現在の日本には絶対零度にはまだ到達していないものの、その方向に進展している社会現象が多数存在する。人口は二〇〇八年の一億二八〇〇万人が頂点で、二〇六〇年には約七〇%の八八〇〇万人になると推計され、経済の指標である国内総生産は同一の期間に世界三位の五兆一〇〇〇億ト

ルから世界五位の四兆六〇〇億ドルと約九〇%に減少すると予測されている。このまま継続すれば、いずれゼロになる。

これら国家全体の縮小とは反対に増加する数字がある。住民の半分以上が六五歳以上の高齢者になって集落の維持管理や冠婚葬祭などの行事ができなくなる状態は限界集落と名付けられているが、過疎地域全体の約一三%であった二〇〇八年から、二〇一九年には三二%に増大している。住人が不在の空き家の戸数は一九八三年には三三〇万戸で全体の九%であったが、二〇一八年には八五〇万戸と全体の一四%になっている。

このような状態が今後も継続していけば、いずれ人口は急減し、経済は停滞し、集落は消滅し、空き家があれば、腐食し倒壊し、場合によっては火災によって焼失し、四分三三秒の世界の一部になっていく運命であった。そこに新規の利用への橋渡しをする仕掛けが登場し、社会に復帰することが可能になった。メルカリに代表されるフリマアプリも同様の役割を社会に提供している。大量消費、大量廃棄の社会構造でマイナス二七三度の廃品となる物品が利用され、社会を健全に維持することに役立っている。

前述の人口の減少、限界集落の増加、空き家の増加などが象徴するように、日本の社会は四分三三秒の静止状態の方向に進行している。ケージの作品が楽譜のままであれば静止した世界を表現しただけであるが、それがコンサート会場で演奏され、現実の社会と接触することによって音楽の歴史に新規の展望をもたらした。さまざまな側面で二七三秒の世界に進行している日本を方向転換させる仕掛けを工夫する時代である。

東京大学名誉教授  
つきお よしお  
月尾嘉男



昭和一七（一九四二）年生まれ。東京大学工学部卒業。工学博士。コンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策等を研究することともに、全国各地で私塾を主宰し、地域の有志と共に環境保護や地域計画に取り組む。

氾濫する社会に到達し、摂氏マイナス二七三度の世界の方角に進行することになる。幸運なことに、絶対零度の環境はほんのわずかな外部からの刺激でも均衡が破綻し、温度は上昇する。これを現実の社会の環境に対応させれば、少数の外部からの移住、少数の企業の立地、少数の空き家の利用によって、活動が活発になることが期待される。

## 方向転換する工夫の出現

徳島市中心部から自動車で二時間半はかかる高知県との県境の山の中に徳島県那賀町木頭地区という集落がある。人口は約一〇〇〇人で六五歳以上が半分以上という限界集落の典型である。最寄りのスーパーマーケットまで自動車で一時間弱という不便な場所であったが、地元出身で地方創生に熱心な企業の社長が「未来コンビニ」という商店を建設した。特産の木材を多用した軽快なデザインで、デザインアワードも受賞している。

これは普通に理解すれば、地元出身の人物の買い物に不便をしている故郷の人々への恩返しと理解されるが、それ以上の波及効果が発生している。同様の過疎に直面している地方の人々が参考のために訪問するのは当然として、斬新な建物を見学しようと建築分野の学生などが訪問してくるようになった。ケージの「四分三三秒」では偶然の雑音が作品の一部になっているように、本来目的以外の効果が発生していることになる。

全国に氾濫する空き家の売買を仲介するサイトがあるが、土地と家屋で一〇〇円という想像もできない値段で販売されている物件が多数紹介されている。東京の都心から約三時間まで到達できる山奥に長年放置してあった空き家を、解体するにも費用がかかるので、サイトに一〇〇円という値段で掲載したところ、多数の購入希望があり、購入した人物は一〇〇〇万円以上の費用をかけて改修し、別荘として利用している。この空き家が放置されたままであ

新刊

「AIに使われる人 AIを使いこなす人」

詳細は裏表紙をご参照ください